

第一席

こんぺいとう 第十五号

愛知県立常滑高等学校

常滑高校文芸部は九月と二月に部誌「こんぺいとう」を発行しています。小説、詩、短歌、俳句、川柳など様々なジャンルの創作活動を続けていきます。今年は文芸部の主軸であった三年生が引退した後、部員が少なくなりましたが、前年度に負けないようにと気を引き締め、創作、編集に部員がそれぞれ責任を持って取り掛かりました。

今年の部誌は「おかしな夏、そして来年への道」をテーマに創作しました。変化した私たちの夏に対して、どのように向き合っていくのかを考え、一風変わった企画や先輩の続編小説など、楽しめる要素がいっぱいあります。少し不思議な作品をお楽しみください。

今年は、失った二ヶ月間の活動を取り戻そうと、一年生には作品を多く載せることや編集作業も頑張ってもらいました。



先輩や先生のお力も借りながら、今年も発行することができました。毎年力が入る、今年を表紙は、玉座に座り本を読む女の子が目印です。
是非、私たちの部誌を手にとって、楽しく読んで頂けたらと思います。

(二年 三浦 有貴)

第二席

『文學帖』 第十二号

私立名古屋高等学校

名古屋高校文学部による『文學帖』第十二号。見所はその濃さでありま

す。
まず、この一冊に小説・詩・短歌・俳句、そして古典研究、全て詰め込みました。創立から一三〇年以上の男子校である本校の特色を活かしたテーマ「男子校の日常」という独自のエッセンスを加えて。例えば、古典研究。こちらは「比叡山」というテーマを元に論文を執筆するだけでなく、本格的なフィールドワークを行いました。男だけで。俳句企画である「琉球探訪」は部員だけで「冬の沖繩」をテーマに俳句を詠むだけでなく、選評を行い、部員だけで句会を成立させました。もちろん男だけで。短歌では、短歌と短歌を戦わせ、最強の一首を選定するオンライン大会（情勢を考慮して）を開催しました。男だけの。



奇をてらうつもりはなかったのですが、色々なことに挑戦していたら奇になつてしまった本誌。楽しんで頂けたらそれ以上の幸福はございません。

(三年 鈴木 康祐)

第三席

AWAY 2020 AUTUMN

愛知県立豊橋西高等学校

豊橋西高等学校文芸部は、週に三回、俳句・短歌などの創作を中心に活動を行っています。言葉を使って表現する楽しさを大切にしなが、皆で切磋琢磨しています。

また、年に二回文芸部誌を発行しています。文化祭で発行する本誌は、生徒及び一般の方々に販売しています。

今回の部誌のテーマは「色」です。十人十色という四字熟語があるように、六人の部員一人一人の色が表れた部誌となっています。詩・コラム・小説・短歌・俳句・企画（色々な時代の流行り言葉）など、色々なジャンルの作品が掲載されています。また、色にこだわったカラーページも満載です。ページをめくるたびに溢れ出す色が、きっとあなたの心を鮮やかに彩っていきますよ。

いつもとは一味違う「AWAY 2020 AUTUMN」を、色々な角度からどうぞお楽しみくださいませ。

（二年 中村 颯汰）



審査員特別賞

言霊の地 岡東文芸部誌第四号

愛知県立岡崎東高等学校

私たち文芸部は、週二回、火曜日と水曜日に活動しています。部員それぞれ、俳句を作ったり、絵を描いたり、小説を書いたりして、部誌の発行やコンクールを目指して日々頑張っています。

今回の部誌は現三年生と二年生の最初で最後の共同制作です。また、卒業された先輩方の作品も三年間分をまとめて掲載させていただきました。

二、三年の部員は、それぞれが書いた小説やイラストをふんだんに盛り込んでいます。特に小説は、各部員の個性や世界観が表れていて、ページ数のみならず、読み応えのあるものになっていると思います。

（二年 森 勇人）



蝉時雨 第一号

愛知県立知立東高等学校

知立東高校文芸同好会は、二〇二〇年に設立されたばかりの新しい同好会です。毎週火・金曜日に、かぶらない個性を持つ部員が神出鬼没で現れ、下校時間ギリギリまで自由に活動しています。

この度紹介させていただくのは、文化祭で初めて発行した部誌「蝉時雨（せみしぐれ）」です（二〇二〇年九月発行）。文化祭では当初発行した百部が午前中になくなり、あわてて百四十部増し刷りをしました。製本作業は大変でしたが、多くの方が手に取ってくださり、とても嬉しかったです。中身は大きくわけて自由投稿とテーマ投稿「夏」の二つがありますが、個性豊かな部員が作成したため、様々なジャンルが楽しめます。また、書体を各々が選ぶことにより、部員一人一人の魅力が存分に出来るものが仕上がりました。



普段は、小説や俳句の創作、創作物の読み合い、リレー小説、有名作品の批評など、幅広く活動しています。部員がやってみたいものは積極的に行う、自由度の高い同好会です。以上、今年から仲間入りいたします知立東高校文芸同好会の紹介でした。

（二年 橘 知里）

ユニコーン 一八六号

愛知県立安城高等学校

文芸誌「ユニコーン」の創刊は、一九八六年（昭和六十一年）です。活動は、小説・詩・短歌・俳句の創作やイラストを描いています。特に八年前からは、俳句づくりに力をいれていて、先輩たちが全国俳句大会で多数入選を果たしています。時々、句会をしてみんなで楽しんでいますよ。

（二年 磯貝 柗豊）



Pinnacle

愛知県立一宮高等学校

こんにちは。一宮高校文芸部です。私たちは年に二度、部誌である『Pinnacle』を出していました。数々の作品が生徒の手に渡り楽しまれてきました。しかし、今年は六人も先輩が卒業したのにも関わらず新入部員は一人、部員の数は半分以下になってしまいました。現実って厳しすぎだと思えます。でも皆で頑張ったので今年も出せた上、『新企画』にもチャレンジすることができました。頑張ったからです。私たちはこれからも二度、部誌である『Pinnacle』を出していきます。

(二年 多賀 俊介)



Literature Club

愛知県立岩津高等学校

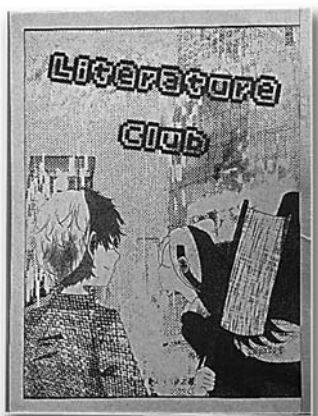
岩津高等学校文芸部は、三年生二人、二年生二人、一年生五人の九人で活動しています。

主な活動内容は部誌の制作発表です。部員達でテーマを決め、自分の世界を表現しています。同じテーマでも人によってとらえ方が違うので、それぞれの世界を楽しむことができます。

昨年までは一冊にテーマで制作していましたが、今年はテーマを「すれ違い」、「未来」、「英雄」と「妖怪」の四つに増やして挑戦することにしました。個性溢れる作品が多く載っています。

これからも文芸部を通して様々なことを学び、より良い作品を制作できるように精進していきます。

(二年 鷹見 晴夏)



卵と雛の突然変異

愛知県立国府高等学校

国府高校文芸部では、部誌『卵と雛の突然変異』を春と秋の二回発行しています。

今回の部誌は、ホラー、学園もの、詩、ファンタジーなどいろいろなテーマの作品が入っており、たくさんの人に楽しんでもらえるものになったと思います。昨年に続き、体裁を揃え、読みやすくすることに力を入れました。

今年はコロナウイルスの影響で、部活動の時間が短くなり、作品づくりに苦労している部員もいましたが、充実した作品を作ることが出来ました。また、例年になく、三年生が多数参加してくれたので、三年間の思いが詰まった卒部作品が多く含まれています。

その思いを胸に今後とも部誌をより良いものにし、伝統の文芸部を守っていけるように部員一同頑張っていきたいと思っています。

(二年 中尾 彩花)



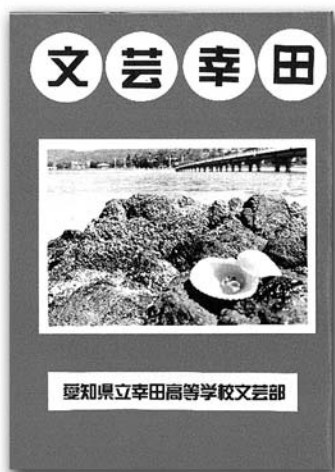
文芸幸田 三十四号

愛知県立幸田高等学校

私たち幸田高等学校文芸部の部誌のテーマは「海」です。

夏に部員と一緒にいった蒲郡吟行は、いつもの吟行とは少し異なり、部員全員がいろいろなことに気を付け、限られた時間での吟行となりました。また普段の生活ばかりでなく、いつもとは違う新型コロナウイルスによる休校からできた俳句や短歌、詩なども載せています。普段の何気ない生活がどれだけ良い時間かを知ることができる良い機会になりました。ぜひお手にとってみてください。

(二年 三浦 早葵)



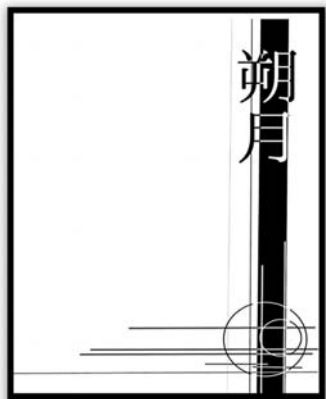
朔月

名古屋市立向陽高等学校

私たちの文芸部は毎年学校の文化祭の日に合わせて、部員全員の作品を発行し、生徒や保護者の方々に配布します。作品の形は小説や詩など自由で、題材もそれぞれによって違います。部員各々が、表現したいものを、好きなように表現する。それが私たちの部誌の特徴です。

共通のテーマを決めていないことにより、失恋の物語を読んだと思ったら次はギャグ調のショートショート、かと思ったら次は小難しい哲学の話に変わったり、読者を飽きさせない内容となっています。私たちの描く多種多様な個性的な世界の渡り歩き。ぜひ体験してみてください。きっと楽しんで頂けると思います。

(二年 大野亜希人)



淡雲苑 企画号

名古屋市立桜台高等学校

『淡雲苑 企画号』は、文化祭で配布するための文芸部誌として、部員全員で製作しました。

企画号とは、部員で企画をし、その内容に沿って部員がそれぞれ作品を書いてくるというもので、文化祭シーズンに毎年恒例で行われています。

今年の内容は、一人一つずつセリフを考えて持ち寄り、「シリアス」や「ファンタジー」といった作品のジャンルと併せてくじを引き、引いたセリフを用いながら、そのジャンルに合わせて小説を書いてくる、というものでした。馴染みのないジャンルを引いたり、くじで引いたセリフを作品に組み込むのに苦労したりした部員もいましたが、バラエティーに富んだ面白い部誌に仕上がったのではないかと思います。

最後までお楽しみいただけましたら幸いです。

(二年 木村 大悟)



COSMOS 113

愛知県立時習館高等学校

時習館高校文学部誌 COSMOS です。春と秋の年二回制作される COSMOS は今年で百十三号目です。

COSMOS には長い歴史があり、様々な伝統が今も受け継がれています。例えば、製本を部員が手作業で行うこと、中・裏表紙の秋桜のレリーフ、テーマ企画。そして、COSMOS という名前も長い間変わらない伝統の一つです。

『秩序』という意味を持つ名のこの本の中には、小説、詩、イラスト、俳句、短歌、漫画等々、部員が考え、悩み、また切磋琢磨しながら作った作品の詰まった混沌です。伝統の中で作り上げられる本の中身は、先代の部員たちに学び年々進化しながら、その回ごとに異なる独特の作品たちです。そしてそれら一つひとつに、部員の「誰かに届けたい」という想いが込められています。

今回も、この COSMOS 113 を手に取ってくださる方に少しでも楽しんでもらいたいと、例年より多くの作品が集まりました。その方々の日々、



少し、秋桜色の彩が加わったなら、その制作に携わることのできた部員として、心から嬉しく思います。

(二年 中山 澄伶)

Colorful Box

愛知県立瑞陵高等学校

「花火」「動物」「風船」そして「解放感」をテーマとして私たちはこの部誌を制作しました。テーマをもとに部誌をつくるというのは、実は初めての試みでした。

瑞陵高校文芸部は、毎年二回部誌を発行しています。いつも一冊目を文化祭の時に発行するので、文化祭にあったテーマでつくりました。

我々の部誌の特徴は圧倒的なイラストの多さです。毎回レベルの高い作品がそろい、見る人を楽しませています。また、今回は通常ジャンルに加え、新ジャンルも増え、さらに華やかになりました。

(二年 山本 愛)



イナカプレス

愛知県立成章高等学校

成章高等学校文芸部は、今年度より部名が「新聞文芸部」から「文芸部」に変わりました。部員としても気持ち新たに、部活動に励んでいく所存です。

「イナカプレス」は、本校における文化祭「成章祭」の開催にあたり発行される部誌です。今年度は新型コロナウイルスの流行とその影響もあり、様々な苦難が重なってしまいましたが、部員全員で協力して、小説や詩、短歌などの作品を収録し、充実した部誌を作ることができました。

今年度のテーマは「天気」です。各々がテーマを独自に解釈・発展させ、事象としての天気や心情の比喩としての天気など、多種多様な「天気」が詰まった一冊になっています。色鮮やかな物語の世界をどうぞお楽しみください。

(二年 柳川 尚輝)



徒然篝火

愛知県立西尾高等学校

自分の描いた絵で、書いた小説で、人の心をうごかしたい——。私たちは、日々それを目指して作品作りに励んでいます。

ある時は歴史について学び作品の解像度を高め、またある時は友人たちと膝を突き合わせて案を出し合い、それぞれの作品を深いものにしていく。私たちはそうやって、自分たちの作品をよりよいものにしていきます。読んで後悔はさせません。部員の魂がこもった部誌、どうか一つ手に取ってみてください。

(二年 石原 沙季)



夢幻 三十一号

愛知県立碧南高等学校

私たちは、年に二回文芸部誌を出しており、今年の文化祭で第三十一号を発行しました。

毎号、全員で話し合ってテーマを一つ決め、そのテーマに沿った作品を中心に執筆することになっています。そして、印刷、製本等、すべての作業を部員全員で協力し合い創り上げています。

部誌を作成するにあたり全員が思っていること、それは「読んだことのない世界に一冊だけの小説を」です。

この「夢幻」に込められた想いをどう捉えるのかは読者にしか分かりません。是非手に取り、お読みください。

「夢幻」ワールドへご案内致します……。

(三年 加藤穂乃佳)

